

令和5年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・促音や拗音を適切に書くことができない児童がいる。 ・テストの問題など、何を聞かれているか正しく読むことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に発音をさせて、声に出しながら書く練習をさせたり、その言葉が入った文章を視写させたりする。 ・「何が」「何を」「どう」「どんな」など、問いに使われる言葉を丸で囲むようにして、一人で読んでも、何を問われているのか明確になるようにする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「たしざん」や「ひきざん」の計算に時間がかかる児童がいる。 ・文章問題の題意を十分に理解せず、数字だけを見て立式しているため、題意にあった立式になっていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードやフラッシュカードを使って、数の合成や補数などを身に付けさせることで、数的感覚を養う。 ・ペアで問題を出し合ったり、確認し合ったりして、楽しく取り組めるようにする。 ・図を描いたりブロックを使ったりすることによって、問題場面を具体的にイメージできるようにする。 ・具体物の操作や書き込みの際に ICT を有効的に活用する。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・発見カードに気付きを書くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識させる。 ・観点（色・形・触った感じ等）を示してから取り組ませる。 ・友達同士で発見カードを読み合い、「いいところ見つけ」をさせることで、次の観察に活かす。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて、正しい指使いで鍵盤ハーモニカを演奏することが難しい児童がいる。 ・リズム打ちを正確に行うことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の基本的な奏法を覚えさせ、ICTを活用し、1小節ごとに確認しながら、その都度評価して褒めるようにする。 ・リズム譜を声に出して練習し、手と声の動きが一致できるようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージがすぐにはまとまらず、作品作りに入るまでに時間がかかる。 ・人物画では、特徴をとらえて、うまく描くことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本を見せながら道具や材料の適切な使い方を指導し、イメージが膨らむような作品事例を紹介する。 ・ポイントを押さえて作業の手順を分かりやすく説明する。 ・人物の描き方を例示する。 ・友達の作品のよさを見つけたり、発表したりする場を設定する。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動や水泳等、「できない」「やりたくない」と、最初から取り組もうとしない児童がいる。 ・基礎体力が低く、諦めが早い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やりたい」「楽しい」という気持ちになるように、スモールステップで少しずつ、できるようになったことを教員が認め、児童に意識させながら進める。 ・明確で短い指示を常に意識し、たくさん褒めて規律ある集団行動ができるようにさせる。 ・運動の系統性をとらえ、発達段階に応じた段階的な指導を工夫する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字だけでなく、1年生の時に学習したカタカナも、正しく書くことができない児童がいる。 文章の中の大事なことは何なのか、理解できない児童がいる。そのため、何を聞かれているか、何を答えたらいいか、戸惑うことがある。 読書量に個人差があるせいか、語彙量に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続きデジタル教科書を活用し、繰り返し書いたり読んだりすることで、定着を図る。 大切な言葉に線を引いたり丸で囲んだりして、何を聞かれているか、何を答えたらいいか、一人でも分かるようにする。 学級文庫の入れ替えをしたり学習に関する図書の紹介をしたりして、いろいろな本に触れられるようにし、語彙量が増えるようにする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 「時刻と時間」「長さ」では、「時刻と時間」の区別がつかない、正確に長さを測ったり、計算したりすることが難しい。 「大きな数の繰り下がりのある筆算」では、空位があったり、繰り下がりのない問題が混じったりしていると、繰り下がりに気を付けて計算できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 意図的に「時刻と時間」について、時計を見せながら問いかけたり、他教科でも作図をさせたり、長さを測らせたりする機会を多くもつ。日常生活や他教科の場で活用できることに気付かせ、自ら表現したいという意欲を引き出す。 繰り下がりが混じっている計算練習をさせることで、それぞれの計算の仕方の違いや共通点に気付かせる。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の世話に、初めは意欲的に取り組んだが、中には徐々に関心が薄れた児童がいた。 野菜が成長したことによる変化やそれに関わる自分の気持ちを文章にすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の成長の過程にも関心がもてるよう、ICTを活用するなどして植物の成長を振り返る。 野菜の様子を具体的に児童に伝えたり、見通しをもって振り返ったりしながら、成長を楽しむことができるように声かけをしていく。 変化や気持ちなどを書くことができているワークシートを紹介し、着眼点のよさを学級で共有する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 技能面で、鍵盤ハーモニカを演奏することに対して苦手意識をもっている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤の技能を向上させるために、鍵盤の音を出して指使いを繰り返し練習する。 歌唱の技能を向上させるために、言葉をはっきりと伝えて歌う練習をする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみやカッターなど刃物を安全に使う技能が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方の動画を作成し、ビックパットで解説して児童がわかりやすくすることで、意欲向上を図る。個別指導で不慣れな児童の技術の向上を図る。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 全ての領域をまんべんなくできる児童が少なく、領域ごとにできることに差がある。 体育が好きな児童が多く意欲的に取り組むが、領域によっては諦めて練習を行うことが難しい児童もいる。 すすんで自分たちの活動の仕方やルールを工夫することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う前に、動画を活用して、できるポイントを確認させる。 運動の系統性をとらえ、児童の実態に応じた段階的な指導を工夫する。 児童の実態に合わせた場や課題を組み合わせ、選択したり補助したりしやすい環境を整えるようにする。 簡単なきまりや活動を工夫して、各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け体力を養う。 出来栄えのみに拘らず、運動の場や用具などを変えながら、課題に取り組むことを大切にしよう促す。 活動していく中で課題の解決が図れるように、話し合いの場を多く設定する。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分が書きたいことを文章で正確に表現したり、文章から物事を理解したりすることが苦手な児童が多い。 すすんで読書をする児童と、ほとんど本を読まない児童との差がある。 漢字の定着に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に辞書の活用を行うことで、語彙力を増やしたり、言葉への関心を高めたりする。 図書時間に本の紹介をしたり、友達同士で本を交換して読んだりして、読書への意欲を高め、活字やさまざまな文章表現にふれる機会を増やす。 定期的に小テスト行うなどして、漢字の定着を図る。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を正しく取り出したり、取り出した情報を比較・関連付けたりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を提示し、情報を取り出したり、比較・関連付けたりする場面を授業の中に意図的に設ける。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 時刻と時間の捉え方が曖昧で、時刻や時間を正確に求めることが難しい児童がいる。 九九を正確に覚えられていないため、ケアレスミスが目立つ子が少なくない。 単位換算に難がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎となる生活体験と結びつけて問題を考えさせるようにする。 毎時間、授業開始5分程度で計算ファイルを実施し、かけ算、わり算の計算力を養う。 可能な限り、具体物を用いて、およその見当をつけるなどして、長さや容積、重さの量感を身につけさせる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードに分かったこと等を書けるようになってきたが、そこから予想したり、考えたりしたことを書くのはまだ難しい。 理科の学習に対して興味をもって取り組んでいるが、さらに主体的に取り組み、思考を深めていこうという児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点や、文章へ記述する内容をあらかじめ示し、何を観察するのかを明確にした記録ができるようにしていく。 児童が主体的に活動できるよう、教員が目的意識や課題意識をもって、意図的に自然の事物・事象に働き掛ける活動を充実させる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの運指やタンギング等の技能の定着をはかるのに時間がかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な奏法や技能の習得のために、継続的な取り組みで定着を図るようにする。また、拡大イラストやビックパットを活用し、視覚的にも理解しやすいようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 材料からイメージを広げて、自分で考えて表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の工夫の仕方を試す活動から、工夫を友達と共有して材料への理解を深めさせるステップを設けることで、自分で考え工夫できるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 互いにアドバイスをする経験が少なく、助言をすることが難しい児童が多い。 自分のめあてをもち、自分のめあてを達成するために活動しようという意欲が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントやコツをまとめた資料をカードに掲載し、助言に役立てられるようにする。 ポイントを示し、それをもとに児童同士で教え合いをできるようにする。 体育カードを活用して振り返りを行い、次時へのめあてにつなげられるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語で登場人物の気持ちを考える際に、根拠となる心情を説明することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中から登場人物の気持ちがわかりそうな言葉を探し、それを根拠に心情を考える学習を行う。 心情を考えたら、根拠となる行動や気持ちを表す言葉を探させる活動を積極的に取り組ませる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 用具を用いて垂直や平行を正確に作図することが苦手な児童が多い。 数値を正しく認識し、順序よく正確に計算する力、根気強く最後までやり抜く気力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具をどのように扱うかを再度指導し、教師がやって見せてから児童にやってみるように声をかける。 学習の最後に練習問題を解く時間を設け、計算力の向上を図る。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容と、自分の生活での関わりまで考えずに単元を終える児童がいる。 実験の結果から結論を出す際に、言葉が出てきにくい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末に今回の学習から自分の生活との結びつきについて考えさせる時間をとる。 結論の型を提示し、今回分かったことからどのようなことが言えるかを考える練習をさせる。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現したり、学習したことを自分の言葉でまとめたりして、学習したことを活用できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめに、ポスターや新聞やタブレットPCのスライドを作る活動を行い、自分の考えや、疑問、さらに知りたいことなどを表現させることで、学習したことを活かす場を設ける。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽づくりの学習に必要な音符の長さの理解や、リズム打ちが定着しづらい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音符カードやリズムカードを使い、音符の長さについて理解を深めたり、拍にのり、リズム打ちをしたりする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> のこぎり、彫刻刀などの道具の使い方、技能の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方動画を作成し、ビックパットで解説して児童がわかりやすくすることで、意欲向上を図る。個別指導で不慣れな児童の技術の向上を図る。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して学習することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のいいところを共有し、お互いが活躍できる環境をつくる。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 声に出して読むことが難しい児童がいる。 文章や情景から人物の心情を読み取ることに乏しい児童がいる。 文章作成に苦手意識を感じる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文、説明文でこまめに読むことで音読の力を養う。ペア読み、交互読み、班読みなどバリエーションを変えて読む機会を増やす。 心情を表す言葉や情景描写の前後の文章を紹介し、読み取り方を随時行う。 書き方を教えつつ、自分の書きたい意欲をかきたてながら、書く習慣を続ける。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算が正確にできない児童が多い。特にわり算の筆算のしかたが身につけていない。 何を求めればいいのか、図や表などから直感的にわかる問題は良いが、長文の文章題など論理的に考える問題を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の最後に練習問題を解く時間を設け、計算力の向上を図る。 問題文を最後まで音読させる。問題場面をテープ図や4マス表で表し、立式しやすくする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説などをもとに質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想する力が全体的に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠のある予想を基に、観察、実験を行い、自ら発想した予想と得られた結果を比較して考察する活動を繰り返す。 何を見せたいのか、何に気付かせたいのかの視点を明確にして、目的や問題意識のある活動にする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対して意欲的に調べることができるが、人や生産者の思いや努力まで考えることが難しい。 グラフなどの資料のどの部分を見たらよいか、資料の読み取りが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー資料や動画を活用し、生産者等の思いに触れることができるようにする。 デジタル教科書を活用し、グラフなどの資料では、大きく変化があったところ、他の物より特出しているところに視点を当てるように全体で共有する。 資料から気付いたことや疑問やつぶやきから学習問題をつくることを授業の流れに入れる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音符や音楽記号を理解して、歌唱の表現や器楽の演奏に生かすことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の鑑賞や歌唱、器楽活動等を通し、音楽を形作っている要素の効果について、カードや視聴覚教材などを用い、体験的に学べるようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 材料からイメージを広げていくことに苦手意識がある。 既習の絵具の技法を様々な課題で応用できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 針金を用いて、材料の持つ面白さを試しながらそれぞれのイメージする力を高める。児童同士で発想したことをビッグパットで共有させることで表現を深める。 既習の絵具の使い方をいつでも振りかえれるように、掲示し、道具を使いやすい環境を作る。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習に対しては意欲的だが、それまでの調理の流れや工夫などの具体的なイメージをもつことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室だけではなく、家庭科室にもビッグパットを導入し、調理前に映像などで視覚的に分かりやすくイメージをもたせる。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 技能のポイントを理解することはできるが、友達に教える経験が乏しい児童が多い。 自分の実態に合った課題を立てることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料やICTを活用して、コツや改善方法をよりよく伝えられるようにする。 課題把握表を作成し、ICTと連動して自分の実態をよりよく知られるようにする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 皆の前で英語で発音することに対して苦手意識をもつ児童がいる。 アルファベットを覚えて、書くことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアから始め、簡単な会話から、相手に自分の思いが伝わる楽しさを感じる経験をさせる。 タブレット端末を活用して、アルファベットを書くことをゲーム感覚で取り組ませる。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を正確に読み取ったり、伝えたい事柄を筋道立てて書き表したりすることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の指導において熟語の意味調べや例文作りに取り組ませ、語彙を増やすとともに、文章を書く機会を多く確保する。 本を定期的に紹介したり朝読書の時間を積極的に活用したりして、児童の読書活動を充実させ、読解力の向上につなげる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習内容を単元の学習が終わると忘れてしまう。 文章題を正確に読み取ることができず、正しく立式できない児童が多い。 四則計算、特に桁数の多いわり算が正確に計算できない。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末で前時の学習を復習する時間を設定する。その後も折に触れ以前の学習を想起させるようにする。 問題場面をテープ図や4マス表で表し、立式しやすくする。 家庭学習で計算問題に取り組ませ、計算力の向上を図る。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科の学習で用いる言葉の意味を十分に理解しておらず、問われている事柄が分からず、プリントやテストに取り掛かれない児童が多い。 実験結果からの考察が感想にとどまっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で実物や動画や写真などを活用して、理解がしやすいように工夫する。 理科的な用語の意味や使い方を繰り返し指導し、確実に理解できるようにする。 考察の型を示し、実験結果を踏まえて学習問題に沿った考察ができるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に向けて適切な資料を選択し、活用できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を提示し、その中から適切な資料を選択して情報を取り出したり、比較・関連付けたりする場面を授業の中に意図的に設ける。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダー等の器楽の活動では、ねばり強く取り組むことに課題をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大楽譜やピックパットを活用し、演奏を分かりやすく提示したり、ペアの学習で学び合ったりする活動を通して、個人のつまずきに丁寧に対応していく。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 電動糸鋸の経験が少ないため、思い通りに切る技術習得に至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 電動糸鋸の使い方など、動画で使い方を確認し「12歳の木工デザイナー」の課題の前に電動糸鋸の技術向上を図る。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫の細かい作業が苦手な児童もいる。 ミシンなどの道具の使い方が分からず、適切に扱うことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大楽譜やピックパットを活用して演奏を分かりやすく提示したり、ペアやグループで友だちにアドバイスし合う活動を行ったりして、個人のつまずきに丁寧に対応していく。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 領域によっては、技能に個人差が大きい。 自分の実態を知り、適切な課題をもつ児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTや学習資料を活用し、児童が自分に合った課題や練習に取り組めるようにする。また、学び合いを深めるために、児童にアドバイスをする時の視点を与え、積極的にアドバイスをさせるようにする。 活動の内容に合わせて、児童に予想されるケガや必要なルールを具体的に考えさせ、安全やルールに対する意識を高める。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を活用して意欲的にコミュニケーションを図ろうとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して扱う英単語の反復練習を充実させる。 「ノバール」コミュニケーションを意図的に取り入れ、楽しみながらコミュニケーションをとることができるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。